

令和7年（2025年）3月19日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌英藍高等学校長

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

「生徒、教職員共に、主体的に行動する力を育み、発揮しよう。」 理念から実践へ～理念や目標を具現化するため、具体的な教育活動の工夫・改善・充実を図りながら着実に実践する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	観点別による評価と指導の一体化が浸透し、主体的・対話的で深い学びの実践が概ね達成できている。 ICT端末の活用が進んできている。研修の必要性は感じているものの機会を逃しがちな傾向がある。	講習への生徒参加について理解を進める必要がある。また、研修の機会を確保する必要がある。
改善方策	教職員のための研修が計画的に実施されるよう、各教職員の課題や希望を管理職が把握し、研修の情報提供を行っていく。また、研修の成果を校内で共有する機会を増やしていく。	
生徒指導	日常的な言葉遣いや態度などについてよく留意しながら指導している。生徒や保護者からの理解は一部で得られていない。 不登校的な傾向など学校に適応しない生徒の対応に困難を感じている。	個々の教員によって指導に差のないようにして、生徒からの信頼を確かなものにしてほしい。保護者の理解を得るためには丁寧な説明が必要である。
改善方策	生徒指導の目的に立ち返り、教育的な観点から具体的な指導の範囲を検討する。また、生徒や保護者との面談には、全員に十分な時間を割けるよう面談の期間を長く設けるなどする。	
進路指導	国公立大学への進学実績が大幅に伸びた。校内の進学指導のサイクルを教職員は、進学指導の力を更に身につける必要がある。また、一部の生徒・保護者からは基礎学力を身につける重要性の理解が得られていない。	単位制のため幅広い選択が可能である一方で、大学受験に対応した学力の向上が難しいかもしれない。その状況にあって、先生方は生徒に対して丁寧に根気よく指導をし、立派な成果を出したと思う。また、学習の目的や意図をわかりやすく伝える姿勢が重要である。
改善方策	探究的な活動に係る指導を見直し、キャリア学習の観点から進路ガイダンス等を再度位置づける。また、基礎学力を身につけることの大切さについて、生徒及び保護者に対して繰り返し丁寧に説明していく。	
公表方法	学校WebページやPTA役員会など各種会議、懇親会などにおいて説明し、広く公表する。	